

春風秋霜 1月号

平成29年1月4日

島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 新年に向けて

明けましておめでとうございます。昨年は、これまでになく学校が安定してきました。これは、教職員の皆様のご尽力の賜物と感謝します。

12月の定例教育委員会において、平成29年度の教育方針を決定しました。今年も「市民に信頼される教育」を目指し、豊かな心と確かな学力を育てていきたいと考えています。各学校でも来年度の教育課程の検討が始まっていると思いますが、育てるのかという「根っ子」の部分を大切にしたい検討をお願いします。



どんな子供を

2 南相馬市を訪問して

12月3日（土）から4日（日）にかけて福島県南相馬市の野馬追の里健康マラソン大会に招待され、8人の子供たちと参加してきました。3日に行われた全国15自治体から参加した子供たちとの交流会において、島田市の子供たちは、他市と比べると、シャイな部分が目立ちましたが、4日の大会では、誰もが持てる力を十分に発揮し、全員が好記録で完走しました。どのレースもレベルが高い中、中学校男子の部で杉本大祐さん（初倉中）が5位入賞となりました。

東日本大震災では、南相馬市も被害が大きく、636人の方が亡くなったそうです。平成25年度に訪問した時に比べ、ずいぶん除染も進み、冬野菜の栽培や稲作の跡も増えていました。また、7m以上も盛土がされた海岸道路の工事も進んでいました。

しかし、除染作業で出た廃棄物が詰められた黒いビニル袋が高く積み重なっていたり、所有者が戻らないため除染が終了した農地が再び荒れ始めたりするなど、厳しい現実も見聞きました。震災前の南相馬市に早く戻ることを願いつつも、その道は大変厳しいと思いました。



3 11月議会から

11月議会では、いじめについての一般質問がありました。最近のいじめ問題では、学校や教育委員会の対応を批判するものも少なくないため、議員の皆様が島田市のいじめについて心配しているのだと思います。

島田市のいじめ件数は、平成24年度をピークとして減少しています。各学校がいじめ認知を積極的に行っていることや、「未然防止・早期発見・早期対応」を組織的に実践していることが、このような減少につながっていると思います。しかし、いじめの多くは解消したものの、一部に指導を継続しているものもあります。

今後いじめについては、『いつでも、どこでも、誰にでも起きる』という認識を持ち、丁寧な観察を継続し、違和感をもった時にその情報を共有し、複数の目で確認することが大切です。また、いじめは、再発が多いことや、グループ内のいじめでは、加害・被害が逆転することも見られます。安易に収束と決めつけないことも大切です。島田市からいじめの重大案件を絶対に出さないという決意をもって子供たちへの指導をお願いします。

4 学校訪問を終えて

教育委員による学校訪問が、12月14日（水）ですべて終わりました。発達障害を含む特別な支援を必要とする子供たちの増加が見られる中、どの学校も安定感が増しているのが、安心して子供たちを見ることができました。教職員がチーム学校で対応してきたことが、このような結果になっていると思います。

また、多くの学校においてアクティブ・ラーニングを意識した授業が行われていたこと、場を整えることを大切にされた学校が増加してきたこと、違和感を大切にされた早期対応が定着してきたことも感じました。

短い教室訪問の中では十分な把握はできませんが、授業改善の意識や課題を明確にした板書という点において、二極化が見られると思います。これまでの授業方法のよさは残しつつも、一人一人が新しい学習指導要領の趣旨をしっかりと理解し、更なる授業改善に努める必要があると思います。

5 ジュニア・エコノミー・カレッジ（ジュニエコ）表彰式に参加して

12月11日（日）におおりでジュニエコの表彰式が行われました。ジュニエコとは、市内の小・中学生がグループを作り、企画書を基に銀行（仮）から融資を引き出し、起業し、収益から税金を払うまでを体験する企画です。国内では、34箇所しか実施しておらず、今年はこのこれまでの取り組みが評価され、文部科学省から団体賞を頂いています。

子供たちは、夏休みの合宿において企画を何度も練り直し、銀行からの融資を元に初倉まつりでお店を開き、現金を手に入れています。大人のアドバイスはあったものの、子供たちの力で経済活動をした価値は大きいと思います。

小学校・中学校のあり方検討会では、このような地域の教育力を大切にしたいという提言をもらっています。学校で同じことを行うことはできませんから、子供たちの体験の場を提供しているこのような機会を大切にしないといけないと思います。

肘かけ椅子

五條 早規子 教育委員長

「呼吸していますか？」

念願だった昼間の講座の受講生になった。しまだ楽習センターの講座で、呼吸法を主とした体操を楽しく学んでいる。

講師から「細く長く息を吐く、体中のすべてをしぼり出すようなつもりで吐く、吐くとたくさん吸える。」と教わる。吐いて吸う一呼吸がこんなに長いものかと当初は戸惑い、準備運動前の深呼吸だけで疲れた。体操の各動きも指示通りにはいかない。例えば、両腕を上げる動き、「肩の力を抜いて首を伸ばす。腕は上へ、肩は下げる。」と講師がやって見せてくれるができない。どうしたら肩の力が抜けるかがわからず、やっけていて肩が凝る。「呼吸している？」「呼吸してね！」と講師から何度も声が掛かる。動きに気をとられ呼吸することを忘れていたのだ。

最近やっと肩の力を抜く感覚がわかるようになってきた。深呼吸にも慣れてきた。すると、自分が今までいかに呼吸を意識していなかったか、肩に力を入れて緊張状態であったかに気付く。かつて職場では、つらいなと思っても、前を向いて一步を踏み出さねばならぬことが多々あった。そういう時、まず吐いて吸う深呼吸をしていけば、体の痛みも心の痛みも和らいだのかしらと思う。

今は、自分にぴったりの講座に出会えたことに感謝し、「深呼吸している？」と問うことを常としている。